安城小学校の「なぎなた踊り」伝承活動の取組（平成２７年度）

１　学校名

西之表市立安城小学校

２　学年・人数

全校児童　９人

３　日時・場所

（１）練習の日時・場所

平成２７年８月～９月	安城小学校・校区合同大運動会　発表前の練習 （安城小学校体育館・安城校区運動場）
平成２７年１０月	校区秋の大祭（願成就）　奉納前の練習 （安城小学校体育館・諏訪神社）
平成２７年１２月	市民会館リニューアルセレモニー　発表前の練習 （安城小学校体育館）
平成２８年１月	市民会館リニューアルセレモニー　発表前の練習 （安城小学校体育館・西之表市民会館） 地区植樹祭　発表前の練習 （安城小学校体育館）

（２）発表の日時・場所

平成２７年９月	安城小学校・校区合同大運動会
平成２７年１０月	校区秋の大祭（願成就）奉納（諏訪神社）
平成２８年１月	市民会館リニューアルセレモニーアトラクション （西之表市民会館）
平成２８年１月	地区植樹祭アトラクション（あっぽーらんど）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

（１）名称

なぎなた踊り（団七口説）（なぎなたおどりだんしちくどき）

（２）由来

安城は古より種子島東側の要所として栄え，黒潮に乗って東海岸にやってきた商船等をもてなした際に，主に上方の芸能を受け継いだといわれている。安城で芸能を学んだ人々が各地に持ち帰り，現在でも「安城踊り（大踊）」を継承する地域は多く，その影響は種子島氏が一時赴任していた北薩にまで及んでいる。安城踊りは，成年が大勢で踊ることから永年踊られていないが，近年復活に向けた動きもある。

なぎなた踊りは近世に伝来したといわれており，西之表の中では貴重な芸能であるといえる。また，島内のなぎなた踊りの中では，団七口説が最も多いといわれている。安城では，かつて一部地域の青少年が伝承してきた。

本校では，この「なぎなた踊り（団七口説）」を昭和６２年度より授業の一環として継承している。

（３）構成等

この踊りは，奥州仙台にて，「みやぎ」と「しのぶ」の姉妹が志賀団七郎を相手に父の仇を討つ物語である。

まず，女子が先に入場して一列になって待つ。そこへ男子が一列になって入場する。

そして，互いの口上を述べてから，男女の列が入れ違いながら剣となぎなたで斬り合いの踊りをする。

最後に，男女２列で退場する。

５　保存会や地域との連携の具体

例年，９月の小学校・校区合同運動会での発表を行うために８月から練習に取り組んでいる。保存会は組織されておらず，地域の踊り手の方にボランティアでの指導を依頼している。現在指導してくださっている方は，校区内の御出身で本校になぎなた踊りを導入した頃に本校に赴任され，当初より関わっていただいている。

また，しばらく途絶えていた校区秋の大祭での芸能奉納を数年前から復活するにあたり，本校ＰＴＡが主体となって当祭への出演も行うようになった。

また，子供が舞踊を継承するだけでなく，衣装の着付け方を保護者が身に付けられるようにするために，毎年家庭教育学級で講師を招いて袴や襦袢・浴衣などの和装について学ぶ機会を設けている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校は児童数が少ないので，より伝承を確かにするとともに，踊りの見栄えを向上させるために工夫を重ねてきた。

本校での伝承活動を始めた当初は高学年が踊り手の中心であったが，徐々に対象を広げて，現在では全校児童で取り組んでいる。さらに，小学校・校区合同運動会での発表などにおいては，卒業生である中学１・２年生を踊り手として招いている。中学生は，部活動等で多忙であるが，地域文化の伝承という目的を理解してもらい，可能なかぎり参加してもらっている。今後，本校での伝承活動で踊りを学んだ方々が地域有志として保存会を組織して後進の育成にあたってくださることを期待している。

また，今年度は市内の式典のアトラクションへの出演を依頼され，普段の運動場や境内ではない，ステージ等で伝承芸能を発表する機会を得た。本来は男女２列で踊る隊形であるが，客席から見所である斬り合いがよく見えるようにするために，男女各２列の計４列で踊る隊形を試行した。これが好評であり，今後発表する場に合わせた柔軟な演出が可能であるという一つの好例となった。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

＜秋季大運動会での発表＞

＜校区秋の大祭奉納＞

＜衣装着付教室＞

＜市民会館リニューアルセレモニーアトラクションでの発表＞

＜前日のリハーサルにて新たな隊形の確認＞　　＜記念式典当日の発表＞

＜地区植樹祭アトラクションでの発表＞

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【低学年児童】

○　なぎなたおどりをひろうしました。きがえているときから心ぞうがバクバクいってきんちょうしましたが，「やるしかない」というつよい気もちでおどりました。本ばんは刀をふるところやかまえるいちなどに気をつけてれんしゅうよりもうまくみんなに合わせておどることができたのでよかったです。

【中学年児童】

○　はくしゅをたくさんもらえるように始まってから終わるまでずっと気をひきしめておどりました。終わったらはくしゅがたくさん来たのでびっくりしました。わたしはやってよかったなあと思いました。

【高学年児童】

○　私たちは１年生の時からなぎなたおどりをふつうにしていたけれど，思えば長い間続けるのはむずかしいことだと思います。私たちよりも年上の先ぱいたちがずっと続けてきたから，今日私たちがおどっていると思います。たくさんの人から大きなはくしゅをもらうと今まで続けてきてよかったと思います。

○　これから安城小に入学する人たちにも教えて，ずっと続けていきたいと思います。また，たくさんの人になぎなたおどりのことを知ってもらいたいです。

○　中学生がいっしょにおどってくれるとうれしいです。私も中学生になってもなぎなたおどりをがんばりたいです。

【保護者】

○　子供たちは入学してすぐに踊りを覚えて，よくがんばっている。様々な場に呼んでいただいて踊らせてもらうことは，いそがしくて大変だが，子供たちの自信につながる経験となるのでありがたい。

○　もう少し人数が多ければいいと思う。また，今は録音したものに合わせて踊っているが，生の歌を歌ってもらって踊らせたい。

【教職員】

○　この踊りを発表することで地域の方々に喜んでいただいているので，子供　たちは自分たちも地域のために何かができるという気持ちをもつことができる。

○　秋は，願成就や敬老会などに向けて様々な芸能に取り組んでいる児童も多く，感心する。他の芸能の中には，夜間練習するものもあるが，この踊りは学校の練習だけで伝承しているので子供の負担は少なくていいと思う。

【地域の方から】

○　子供が減って，子供の姿を見ることが減っているので，地域の行事で子供たちの踊りを見ると，それだけでうれしく思います。

○　今年はいろいろなところに呼ばれて踊っている様子を見て，多くの方から，なぎなた踊りのことをほめていただいた。これからも学校で伝承していっていただきたい。子供たちのなぎなた踊りでの活躍が，現在途絶えている他の伝承芸能の復活へ向けた機運を高めている。